

地域とともに走りつづけて

渡 邊 綱 平

(秋田中央交通株式会社 代表取締役社長)



■秋田中央交通の沿革

秋田中央交通の前身である五城目軌道株式会社は、大正10年1月15日に設立されました。当時の資本金は20万円、株式数4,000株、株主76名でありました。

五城目町は古くから、八郎潟など平野部と山間の阿仁地方を結ぶ交通の要衝として栄えていました。しかし、明治35年に開通した奥羽本線は八郎潟東岸を通過し、五城目町の中心部からは4kmほど離れており、鉄道のない不便から鉄道敷設運動が起こり、当社初代社長の渡邊全之助など五城目町の有力者が鉄道敷設に尽力しました。大正8年に創立事務所を開設し、大正9年8月13日に軌道敷設と営業許可が出されました。大正11年4月21日に奥羽本線五城目（後に一日市→八郎潟と改称）駅から東五城目（後に五城目）駅まで3.8km、1日7往復、所要時間20分、運賃19銭で営業を開始しました。

軌道開通後も私鉄で一番短かったとも思われる営業区間のため、収支のバランスが難しく、昭和に入ると乗合自動車業の進出が急激に広範囲で行われ、激しい競争が繰り広げられるようになりました。

昭和3年4月に伊藤自動車商会が軌道に対抗し、五城目と一日市間を20銭でバス営業を開始しました。当社は自動車には自動車に対抗すべきと、一般乗合自動車業の認可を得て、昭和3年9月18日より五城目と一日市間を20銭8往復で営業を開始しました。

自動車業はほとんど野放し状態での競争でありましたが、昭和8年8月に原則として一路線一事業者主義の「自動車交通事業法」の施行などもあり、やがて沈静化しました。さらに戦時統制のもと、昭和18年4月1日にはバス事業統合の通達が実施され、五城目軌道株式会社が統合の主体となって、地主バス、三吉自動車商会、田口自動車、秋田岩見三内自動車組合、渡辺自動車、男鹿バス有限会社、菅原与吉郎の7業者と統合し、秋田中央交通株式会社となりました。規模を一気に拡大した当社は昭和19年9月14日に秋田～土崎間の新国道路線の免許を取得し、秋田～五城目間の直通運転の道が開けると同時に、路線網も一応の完成をみるようになりました。

しかし、その後は戦局の悪化によって資材の欠乏や燃料の統制など苦難に直面し、増資により昭和25年1月20日に軌道の電化運転を開始し、昭和25年には当社で初めて大型ディーゼル車を北浦に導入しました。

一方、昭和16年に発足した秋田市営バスは、昭和28年4月に男鹿市、本荘市、大曲

市、能代市を結ぶ路線を申請したため、県内民間3業者は強力な反対運動を行い、運輸省などへの陳情戦が始まりました。会社としては競争上どうしても経営の主体を秋田市に切り換える必要があったため、昭和28年9月20日に本社業務を秋田市に移転しました。昭和30年代前半は男鹿定期観光、出戸浜海水浴場や貸切バスの利用客の増加もあって経営状態は安定するようになりましたが、秋田市営バスとの間での激しい競争が繰り広げられるようになりました。

この間、軌道は電化など輸送力の増強が計られますが、昭和30年代中頃から赤字に転落。平行するバス路線が堅調だったことから昭和44年7月10日限りで五城目町民に惜しまれつつ、軌道運輸事業を廃止し、当社はバス事業に専念することになりました。

昭和40年7月11日に秋田～五城目間を初のワンマンバスの運行開始。昭和54年3月1日に貸切バスの拡販のため仙台案内所を開設しました。同年にはスーパーサロンバス「ドリーム号」を導入。昭和56年には秋田空港の開港に伴い、空港リムジンバスの運行を開始しました。昭和58年には東京案内所（平成9年閉所）を開設し、貸切バスの新規需要の開拓にも積極的に乗り出すことになりました。

昭和61年11月1日、自社ビル跡地に建設した中交ホリディスクエアを長崎屋に賃貸し、秋田店が華やかにオープンしました。昭和63年2月、秋田と東京を結ぶ夜間高速バス「フローラ号」が誕生し、秋田県と首都圏を結ぶ高速バスはこれが初となり、県内主要都市と首都圏を結ぶ夜行バスを誕生させるきっかけとなりました。

平成2年4月には秋田と仙台を結ぶ仙秋号が運行開始。平成10年4月には秋田道全線開通に伴って7便（現在10便）とし、時間短縮、料金値下げなどのサービス向上を図り、利用客が増加することになりました。

■秋田市交通局からの移管

バス事業は、昭和40年以降における車社会の進展による交通手段の多様化などから乗客数の減少傾向に歯止めがかからない状況にあり、厳しい経営状況にありました。それは秋田市営バスも同様で、平成7年11月から秋田市行政改革大綱で事業形態等の見直しに関し「現状維持」「民間移管方式」「間接移管方式」「一部運営委託方式」の4案を検討した結果、市が全額出資する新会社へ移行する間接移管方式が最適との結論が出されました。これを受け、平成10年度の市議会で検討を始めたところ、参考人として出席した当時社長であった渡邊靖彦が、市営バス事業を引き継ぐ形で秋田市におけるバス事業を一本化したいとの申し出をしました。

秋田市では再検討した結果、平成12年度から段階的に路線移管することを決定しました。平成18年4月1日に乗務員や車両確保など紆余曲折がありましたが、路線移管は無事に完了し、平成18年3月31日をもって秋田市交通局は廃局となりました。

■コロナウィルスによる影響と100周年に向けて

新型コロナウイルス感染症の拡大により、緊急事態宣言が発令された中でも地域の公共交通を支えるため、車内消毒・換気等感染症対策を講じながら路線維持に努めてきましたが、バス業界を取り巻く環境はさらに深刻になっています。

路線バスはようやく7割程まで回復しましたが、貸切バスはキャンセルが多発、高速バスは仙台便を減便、東京便はGW期間中、運行したものの再び運休となり、かつて経験したことのない危機に直面しています。

弊社は来年の令和4年(2022年)4月21日で、開業100周年を迎えることになります。その間、様々な困難や紆余曲折を経ながらも、一貫して旅客を安全に輸送するという仕事をしてきました。そして現在は前述のとおり、コロナウィルスの影響で新たな危機に直面していますが、100周年というタイミングで『ICカード導入』という大きな事業が控えています。このコロナ禍において、不特定多数が触れる現金を利用することのリスクが意識され、キャッシュレス決済の存在感が高まってきている中で、ICカードが導入されれば、より身近に浸透し、ライフスタイルが変化するとともにバスの利便性向上に繋がり、新たな可能性が生まれると信じています。

まずは「安全・安心」を最優先に輸送サービスを提供し、今後も地域の足として公共交通機関の使命を果たし、信頼され愛されるバス事業者を目指してまいります。

会社概要

1 会社名	秋田中央交通株式会社
2 代表者	代表取締役社長 渡邊 綱平
3 所在地	〒010-0931 秋田市川元山下町6-12
4 電話番号	018-823-4411 (代)
5 F A X	018-823-1565
6 U R L	http://www.akita-chuoukotsu.co.jp/
7 創業	1921年(大正10年)1月15日
8 資本金	1億7,250万円
9 売上高	21億6,775万円(2020年3月期)
10 従業員数	330名(2021年4月現在)
11 事業内容	一般乗合旅客自動車運送業、一般貸切旅客自動車運送業、 自動車分解整備事業、土地建物の賃貸業、旅行斡旋並びに 代理店業務 ほか
12 経営理念	1 企業の使命を自覚し、安全な輸送を通じて、社会の信頼にこたえる。 2 和を重んじる伝統のうえに、進取に富んだ、活気あふれる職場をつくる。 3 温良で、自らにきびしく、他には思いやりのある人間になる。